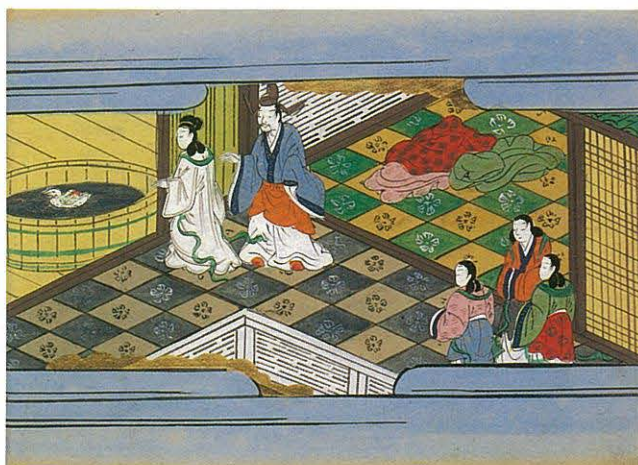


来・ぶ ら り



《奈良絵本 長恨歌》 龍谷大学図書館所蔵
三冊、寛文延宝頃写、金銀泥彩挿絵入。
玄宗皇帝と楊貴妃の物語を散文で綴った白樂天の長
編叙事詩『長恨歌』の奈良絵本。挿絵は全部で十四図
あり、金箔がかなり使われている。この時代に奈良絵
本化された『長恨歌』は極めて稀少である。

大宮図書館と私の学生時代

普賢 晃壽

私が龍谷大学の予科に入学したのは昭和23年（1948年）である。約半世紀前である。太平洋戦争が終って間もない頃であった。今日のように書物が洪水の如くあふれている時代ではなかった。私共学生は図書館に朝から入り浸り、目的の書物を開いて、恩恵にあずかっていた毎日であった。特に資料を収集する場合、今日の如くコピーの機器のなかった時代である。すべて手書きでノートに写し取ったものである。当然多大の時間と労力を要した作業であったといっても過言ではないであろう。一冊の書物を時間をかけて写し取ったこともあった。それに比して今日の学生諸君はコピーという機器のお陰で、資料収集が非常に簡単になり、多大の恩恵を受けられていると思う。私は今の学生諸君に、手書きでノートに資料の収集をなささいといった野暮なことを強要するつもりはないが、手書きの原始的な資料収集にはそれなりの学問的な意味があったと思う。それは書写を通して論文の執筆者と一体になり、論文に記述されている研究者の論旨が自分の頭にたたき込まれ、記憶されるという事実である。コピーで収集した資料はその場かぎりになってしまう場合が多いといわざるを得ない。学問研究のいとなみは、その時代の科学の恩恵を最大に活用して、研究を進めるのは当然ではあるが、かつての私共の学生時代のノートへの手書きの資料収集のいとなみもまた、それなりの意義があったと思う昨今である。

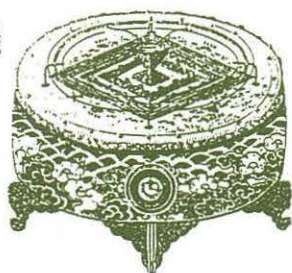
（文学部長）

目次

大宮図書館と私の学生時代 文学部長 普賢 晃壽	1
「からくり儀右衛門」製作の仏教宇宙儀 須彌山儀の修復	2
大宮図書館サービススペースの配置が変わりました	3
再発見/主題(テーマ・キーワード)からの資料探索法	4
瀬田図書館へ行こう!!	6
型より入って型から出よう 図書館長 繁田 實造	8
図書館と私 (理工学部 物質化学科2回生) 岩川 カおり	

「からくり儀右衛門」製作の仏教宇宙儀

須彌山儀の修復



「須彌山儀」っていったい何？

「須彌山儀」とは古代インドの宇宙観である須彌山説に基づいて仏教の宇宙説を説明しようとしたものであり、江戸後期の天台宗の学僧、円通（1754～1834）が動く天文時計として最初に考案したものである。形は中央に須彌山がそびえ立ち、周囲に7つの山脈と、その外側に4つの大陸がある。経典ではこれらの山脈や大陸は満々とたたえられた水の中につかっており、天空には太陽と月が順行しているという。当時西洋の宇宙説に対して仏教の宇宙観を経典に基づいてわかりやすく説明した天体儀として大変貴重なものである。



『須彌山儀銘』無外子作（大宮図書館蔵）

『からくり儀右衛門』ってどんな人？

「からくり儀右衛門」は江戸幕末から明治期にかけて活躍した優れた技術発明家であり、本名を田中久重（1799～1881）という。彼が「からくり儀右衛門」と呼ばれるのは「茶杓人形」「弓射人形」等のからくり人形による演出で興業を行ったことによるが、その後「万年時計」をはじめ多くの発

明品を生み出しており、さらには天文暦学にも深い造詣を持っていた。

彼は東芝の創設者でもあり、当時の電信機製作の店舗兼工場が東京芝浦電気の発祥となっており、久重が近代技術の発展に大きく貢献していることが窺える。



田中久重肖像

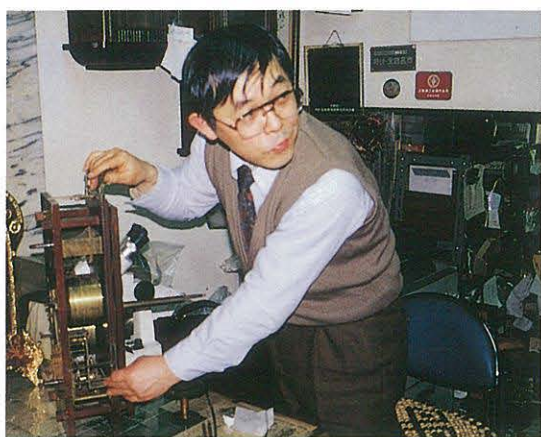
龍谷大学所蔵の須彌山儀は天竜寺の僧環中と、長州の僧晃巖の依頼により、田中重久が弘化4年（1847）に着工、嘉永3年（1850）に完成させたものといわれている。

内部機械部分の修復は？

須彌山儀の内部機械部分の調査は日本和時計学会に依頼した。和時計学会の解体調査後の修復については、関西時計技術センター代表取締役であり、大阪府時計高等職業訓練校で、時計技術者養成の仕事も担っておられる加藤和彦氏のもとで行われ、詳細な分析の結果、部品のないものは設計図面を作成し実際にパーツが作られる。

加藤氏によれば、この須彌山儀は、歯車の軸受部分が非常にめずらしい木製地板と黄銅地板の折衷式となっており、歯車は黄銅製、真棒及び動力用ゼンマイは鉄鋼製であるとのこと。その他にも和時計の構造上、他に例の少ない次の特色をもつ。

- ◎機械構造は初期西洋式を応用しているながら、江戸時代日本式の独特な時刻制度「不定時法」（夏冬、昼間の時間の長さが異なる）や「逆進時刻」（9時から4時まででしかなく、9、8、7…と逆進する）を表していること。さら



加藤和彦氏と須彌山儀の心臓部分
(関西時計技術センターにて)

に1年を24節気(例:立春、雨水、啓蟄、春分など)に分割した一年時計であるということ。

◎動力用ゼンマイには、巻付用のヒモを用いた初期、等力伝達装置が付いていること。

◎1ヶ月を30分割したカレンダー表示回転板がついているが31日の表示がないこと。

◎逆進時刻制度に合わせた数で鐘を打ち時刻を知らせる自動の時鐘打機構付であること。

構造上の側面から見ても須彌山儀は学術的に貴重な資料といえる。加藤氏は「天動説に基づいた月と太陽がそれぞれの周期で回る最初期の日本式天文時計の一つでしょう。」と興味深く語られた。

外装部分の修復は?

須彌山儀外装部分の修復は多くの文化財の修復

を手掛けてこられた文化財修理技師に依頼した。

技師は彫刻、漆塗り、螺鈿、金箔等あらゆる修理に係る専門的な修復技術を体得されており、須彌山儀修復も好意的に引き受けて頂いた。

さて、技師によると、材質は檜材で木造寄木造り、黒漆塗りに螺鈿が施されている。破損ヶ所は漆や螺鈿の剥がれている部分が多く、部品の破損、欠落は以外と少ないとのことである。外部の修復で最も苦勞するのは猫脚の螺鈿部分で、まず鮑貝を材料とした薄貝を、鉄筆もしくは針で切りながら形を作り、貝を装飾部分に貼付ける。その上から漆塗りをかけ、炭や砥石などで貝が浮き出てくるまで磨き、さらには貝の色をよりあざやかにするために「ふせ彩色」技法を使う。曲面が多いため、割れやすい薄貝を貼るのは時間と根気がかかる作業とのこと。技師も「当時の技術は相当なもの」と感心されていた。



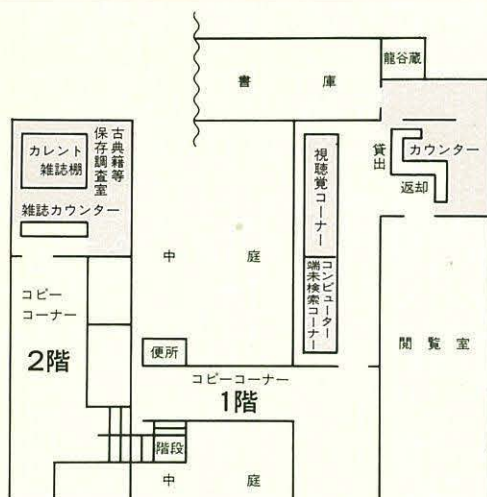
文化財修理技師による螺鈿部分の修復

大宮図書館サービススペースの配置が変わりました。

大宮図書館の閲覧カウンター、雑誌カウンター、視聴覚コーナーが右図のように変わりました。

主に次のような点が改善されました。

- ①雑誌カウンターが2階へ移転し、より充実したサービスが行えるようになります。
- ②不便でわかりにくかった視聴覚室が、新たに「視聴覚コーナー」として使いやすい場所に移転しました。
- ③カウンターが閲覧室により近くなり、返本など利用の際便利になりました。



再発見!

主題(テーマ)からの

皆さんは何か調べたいものができた時、どのようにして資料を探していますか。今回は主題(テーマ)、特に一つのキーワードからどれだけの資料を探すことが出来るか、その探索法の一例を挙げてみたいと思います。

資料を探す場合、何について調べたいのか、どのような資料が必要か、まず目的を明確にすることが大切です。そして次に参考図書(イミダス・各種事典など)で大まかな内容やキーワードを把握し、その上で目的に適した資料についての検索を始めると良いでしょう。(図1参照)

■図書編

参考図書でキーワードをピックアップすると、すぐに検索用端末を使ってしまいがちですが、検索用端末は書名、著者名から図書を探すのには向いているものの、漠然としたテーマ、キーワードから探すのにはあまり向いていません。また、所蔵している図書の中からしか文献を探せないため、それだけ選択肢を狭めることになります。

このような時に使うのが「書誌」と呼ばれる検索ツールです。この「書誌」はいろいろな観点から資料を探す「図書を探すための図書」で、主題から資料に行き着くことが出来ます。教科書の巻末などについている「索引」をイメージするとわかりやすいでしょう。この「書誌」は図書だけでなく、雑誌や新聞記事を対象にした書誌(雑誌記事索引・新聞記事索引)もあります。

さて、これらの書誌から自分の目的により近い図書を見つけたら、端末で検索します。出版年が1992年以前の図書はカード目録でも調べましょう。

(92年以前の図書はデータ化されていないものもまだまだあるからです。)

■雑誌編

雑誌についても基本的に図書を探す場合と同じですが、検索用端末では内容がわからないという点で、書誌の活用がかなり重要となります。具体的には「雑誌記事索引」などで、目的の記事が何

という雑誌の何巻何号に載っているかを調べてから検索用端末で検索します。所蔵の有無については冊子体の「龍谷大学雑誌総合目録」でも調べることが出来ます。また、雑誌記事索引より短時間、広範囲で検索したい人には「NACSIS-IR」という学術情報検索サービス(図書館員が代行検索)も行っていますので是非利用して下さい。

■新聞記事編

新聞記事については「新聞記事索引」などの書誌の他に、「日本経済新聞CD-ROM版」、「CD-HIASK(朝日新聞記事データベース)」「(利用自由)」、さらには「日経テレコン」というオンライン情報サービス(図書館員が代行検索)からの検索が可能です。また、日経テレコンは各企業の情報なども得ることが出来ます。新聞で一年以上前のものは縮刷版やマイクロフィルムで保存しています。

■各種統計資料(年鑑・白書・統計)編

扱いは図書と変わりませんので、統計資料を対象とした書誌を使い、図書と同じように検索して下さい。その他に上場企業の業績が知りたい時は「有価証券報告書」(「有価証券報告書総覧」で探します。検索用端末では出てこない所以要注意。)、企業の社史を知りたい時は、社史・団体史ばかりを集めた「長尾文庫」があります。

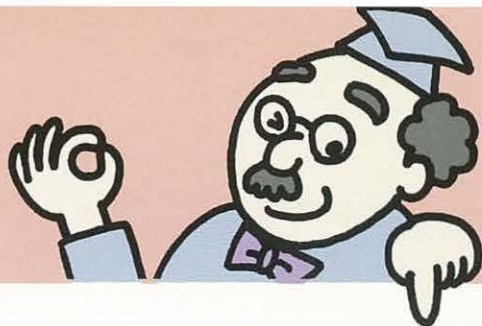
■判例編

判例とは過去の裁判の判決例のことです。判例については書誌の他に「リーガルベース」、「法律判例文献情報CD-ROM」(共にCD-ROM、利用自由)で検索することが出来ます。有名な判例については法学系の雑誌で論評されているので、そちらも調べてみましょう。

■目的の資料は見つかりましたか?

さて、目的の資料は見つかりましたか。「見たい資料があるけれども図書館で所蔵していない」という場合でも諦めてはいけません。書名、雑誌名

資料探索法

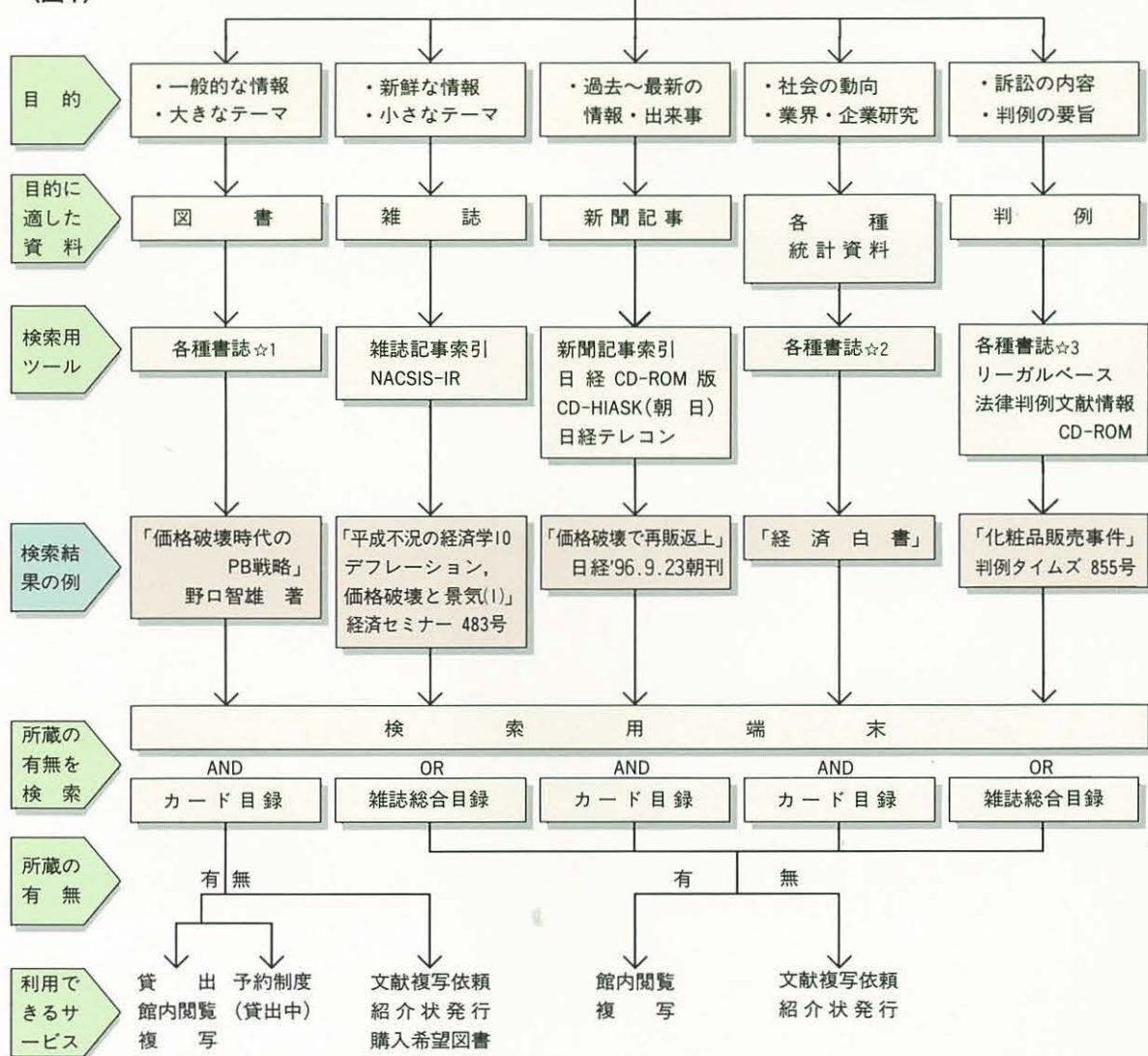


などが判れば、全国の大学の中から所蔵している大学を調べて紹介状を発行したり、文献複写依頼をすることが出来ます。また、図書であれば購入希望図書制度を利用して、図書館に入れることも可能です。このように図書館はあらゆる資料、情報を提供することが出来るよう、環境を整えてい

ます。ですから、よい資料が見つけれられるかどうかは利用する人のやる気と努力にかかっています。そのためには図書館員も助力を惜しみません。図書館と図書館員を最大限に活用して目的の資料を見つけて下さい。

〔図1〕

例：キーワードを「価格破壊」で資料探索した場合



☆1 経済学文献季報ほか ☆2 とうけい調査資料目録、統計ガイドブックほか ☆3 法律判例文献情報<判例編>、法律時報総索引ほか

※ここで紹介した検索用ツールの中には、一部深草図書館でのみ扱っているものもあります。

瀬田図書館へ行こう!!

平成8年4月の瀬田図書館新館のオープンに伴い、マルチメディアコーナー・AVホールが新設されました。魅力いっぱいの瀬田図書館、ここではマルチメディアコーナーとAVホールを取り上げてみましょう。

マルチメディアコーナー ◆【新館地下1階】

- 「マルチメディアコーナーって何だろう？」そう思ったら瀬田図書館へ足を運んでみよう！マルチメディアコーナーにはAVC端末（DOS-V機）が30台とMacintoshが5台、計35台のコン

ピュータが設置されています。このコーナーはコンピュータを自由に使うことができるコーナーです。ではマルチメディアコーナーではどんなことができるのでしょうか？



◀AVC端末 初期画面▶

- AVC端末は、利用者が画面の指示に従ってマウスを操作するだけで、インストール済みの学習用ビデオ（語学関係・物理実験等）を視聴することができます。またパソコンとして文書作成・表計算等の学習もできます。

Macintoshにはワープロソフト一太郎 Ver.5をはじめさまざまなソフトがインストールされていて学習用として利用可能です。英和・和英辞典といった電子辞典も入っていますので語学の学習にも最適ですよ。

AVC端末に インストール済みのビデオ一例

《語学関係》

ビデオ教材 英語は度胸
エッセンシャル中国語—中級編—
ドイツ語

《情報科学》

Cプログラミング

《社会科学》

マスメディアと現代
—コミュニケーションとは—
文化と社会
—文化へのアプローチ—
地域社会と教育
—地域社会の変動と教育—など

Macintoshに インストール済みのソフト一例

- 一太郎 Ver.5
- 研究社英和・和英辞典
- 岩波国語辞典
- クラリスワークス
- キーボードマスター など



- VOD* (ビデオ・オン・デマンド) によりリアルタイムで最大30名が同時に、それぞれの利用者が時間差をもって視聴することができます。すなわち、好きな時に必要な情報が引き出せるシステムなのです。
- ヘッドホンセットにより図書館員と会話ができます。操作方法が分からない場合に利用すると便利です。
- パソコンで文書作成するもよし、ビデオを視聴するもよし、またMacintoshで語学の勉強をするもよし…。可能性が広がる、それがマルチメディアコーナーです。利用手続は不要です。気

軽に利用して下さいね。操作方法が分からない場合は図書館員に尋ねて下さい。

【用語解説】

*VOD…VTR資料等をデジタル化して蓄積し利用者側のモニターへサーバー機を通じて即座に画像を送る。
(Video On Demandの略)

【お願い】

学習以外の利用やプログラムの改ざんは厳禁です。不正使用が目に見える場合は、利用に制限が加えられることがあります。お互いが気持ちよく利用できるように機器は大切に扱しましょう。

AVホール ◆【新館2階】

- AVホールは総座席数50席、とりわけ小さな映画館といった感じでしょうか。瀬田図書館では週2回、上映スケジュールにもとづいて、ビデオ・LD等の上映を行っています。専用のワイヤレスヘッドホン（赤外線使用）でクリアな音声を受信し、100インチ大画面から繰り出される映像は迫力満点!! また、衛星放送も常時放映して

いますのでご利用下さい。

- 視聴希望者は本館1階カウンターへお越し下さい。学生証と引換にヘッドホンを出します。また、授業や課外活動等で利用することもできます(要予約)。詳しくはカウンターでお尋ね下さい。

型より入って型から出よう

繁田 實造

尺八の習い初めの頃は、まず、さくらさくらなどよく知られた数曲を吹いて音程を確かめる稽古をし、次に習うのは「黒髪に始まり黒髪に終る」といわれる黒髪という短かい小曲である。教えられたように尺八の手孔を開け、拍子を間違えないように吹くと、一応は黒髪の曲となる。すなわち、伝来の型を守って吹けば、一応、曲として聞けるものとなる。

ところで、例えば、地唄舞の名手、武原はんの舞台に合わせた黒髪の演奏を聞くと、決して型通りの演奏とはなっていない。舞、唄、三絃、琴、尺八と、お互いに相手の長所を引きだすために、お互いに型から抜け出すことによって、名演奏が成りたっているのである。このように型から抜け出て名演奏をするためには、伝来の型とは何かを知る必要があり、まず、型の習得が何よりも必要となる。お茶の世界でも守・破・離ということがいわれる。まず、伝来の型を習得してこれを守り、次いで、その型を破り、最後には型から離れてはじめて真のお茶の境地に入りうるといわれている。学問の世界では、よく「通説からの自由、師の説からの自由、昨日の自分からの自由」ということがいわれているが、通説とは何か、師の説とは何かを知らなくては、何が自由であるかも知れないであろう。通説、師の説を知るためには講義に出る必要があるし、書物をひもとく必要もある。図書館はあなたの知りたい通説や師の説の宝庫であるので、大いに活用していただきたい。

図書館長

図書館と私

岩川 かおり

龍大の図書館を利用するようになってから、1年が経った。全く早いものである。入学したての頃は、どのように利用したらいいのか分からなく、結構困ってしまったりした。いったい、どうやって本を探せばいいのか、どこでどのような手続きをしたら本が借りられるのかなど全くわからなかったのである。

そんな私の所に図書館でバイトをしないか？という話が飛び込んできた。図書館の事など何も分かっていないくせに「はい。是非ともやらせていただきます」と答えてしまったものだから大変なものである。しかし、このことが私にとって図書館の利用法を知るいい機会になったのはいうまでもない。図書館という所は、いろいろな機能をそなえた便利な場所である。図書館にある本を借りることができる（参考図書は除く）のは勿論のこと、龍大にない文献は文献複写というかたちで利用することができる。また、AVコーナーでビデオを見ることもできるし、学習室を利用することも可能なのだ。ときには、あまりの快適さ故、仮眠室(?)として利用してしまう人もいるようではあるが。

今、やっと自分にとって困ってしまうこともなく自由に利用できるようになった図書館。そこには、沢山の資料や思想、そして学問の自由がある場所のように思う。そして、そのような場所で、自分にとって大切な何かが得られたらすばらしいと思う。

(理工学部 物質化学科2 回生)

インターネットにて図書館情報公開中！

蔵書検索や各館開館日程表ほか役立つ情報満載！

龍谷大学ホームページ

URL <http://www.ryukoku.ac.jp/>

龍谷大学図書館報『来・ぶらり』第16号

1997年 4月発行

編集・発行 龍谷大学図書館

〒612 京都市伏見区深草塚本町67

☎075-642-1111(大代)